

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472602737	事業の開始年月日	H17年3月1日
		指定年月日	同上
法人名	医療法人社団 仁和会		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	(〒 252-0231 ) 相模原市中央区相模原8-6-17		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2 工外
自己評価作成日	H26年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www2.ocn.ne.jp/~jinwakai/top.html">http://www2.ocn.ne.jp/~jinwakai/top.html</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「ふれあい、支え合い、認め合い、安らげる生活の場」を事業所理念とし、一人ひとりの個性を大切に信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが送れるように心がけている。 体操や家事仕事など職員と共に出来ることは行い、ADLの低下を防いでいる。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年3月4日	評価機関 評価決定日	平成26年4月8日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所はJR横浜線相模原駅から徒歩10分ほどの住宅地にある。駅前の大通りや16号線道路から少し入った場所にあるが静かで、近くに公園やコンビニエンスストア、スーパーなどがある利便性の良い環境になっている。事業所の前には市立保育園があり保育園の行事案内がきて定期的に交流している。建物は鉄骨2階建てでエレベーターと階段で移動ができる。廊下は車椅子がゆったりすれ違える広さがあり、突き当りにはソファが置かれ、くつろげる空間を作っていた。</p> <p><b>【介護計画の実践】</b> 介護計画は本人や家族の意向を把握し、医師や看護師の意見を取り入れ、日々の観察から把握した情報を共有して計画を作成している。支援経過記録は介護目標に沿った実施項目に番号をつけ介護目標と連動した支援実施記録になっている。1か月から3か月に1度のモニタリングを行い評価し、変化に応じた介護計画の見直しをしている。</p> <p><b>【地域との交流】</b> 自治会に加入し、地域清掃や地域防災訓練に職員が参加している。自治会の盆踊りには利用者や職員と一緒に参加している。中学生の職業体験を受け入れていて、中学生がグループホームに体験学習に来て利用者と交流している。地域の方がボランティアで陶芸の指導をしてくれたり、フラダンスやハ・モニカの演奏に来てくれている。道をはさんですぐ前にある市立保育園の園長が運営推進会議のメンバーになっており、保育園の行事案内がきて運動会やお遊戯会の練習見学、誕生会など定期的に交流している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム すみれ
ユニット名	1F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をフロアーの見える所に掲示し、いつでも確認できるようになっている。 フロアー会議などで確認している。	理念は事業所の開所時に作成され法人内のグループホームの共通理念になっている。ケアの中で理念に戻り「安らげる生活の場」になっているか職員間で確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、保育園の誕生会や自治会のお祭りに参加している。地元中学校の職場体験を受け入れ、施設の役割や認知症の方とのふれあいを持って貰っている。	清新仲町自治会に加入し地域防災訓練や地域清掃、盆踊りなどに参加している。中学生が職業体験で見学に来ている。保育園の行事や誕生会に呼んでいただき交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター会議への参加、運営推進会議、地域のお祭りに参加などして、認知症の方の理解をしてもらえる様に働きかけている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を話したり、地域の方に防災訓練に参加してもらうなどし、サービス向上に活かせるように心掛けている。	本年度は3回開催した。メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、保育園園長、家族代表で、会議では運営報告、行事報告、情報・意見交換をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や生活支援課の担当者と連絡を取り、入居者の相談や情報を伝えて協力している。	市の担当課職員が代わったときには挨拶に行っている。介護申請の更新代行で担当職員と面識がある。市主催の研修や地域ケア会議で市職員と話す機会がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加している。重度の認知症の方がいるが、身体拘束について理解している為、行っていない。 夜勤者が1人対応になった時のみ玄関に施錠をしている。	運営規定に緊急やむを得ない場合を除き身体拘束はしないと明記している。「身体拘束廃止」について研修している。玄関は外からは入れるが出るときはロックされている。各ユニットの出入り口は施錠されていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行い、理解をしている。 小さな事でも見過ごさないように入浴時など身体観察を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解をしているが、必要な方がいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望があったら面接に行き、ご本人・ご家族と希望や疑問などを聞き施設の理解をしてもらっている。実際の居室の見学をおこなっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱が置いてあるが、投書はない。日頃の面会時や家族会・運営推進会議で相談や要望を聞く機会があり反映させている。	家族会を年2回開催し、意見や要望を聞いている。家族の意見を取り入れて職員の紹介写真を新しく作って掲示した。意見箱を玄関に置いている。来所時や電話でなど随時お話しするようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を吟味し検討改善する機会を持っている。	職員は月1回のフロア会議や申し送り時に意見をだしている。個別面談は行っていない。気づいたことは常時管理者に話している。職員の意見で調味料など消耗品の開封記録をつけて管理し、塩分や糖分の使い過ぎを防止した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の働きなどを元に年2回の賞与に反映されている。 各担当や係を持って貰い、やりがいを持てるように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、外部の研修に参加する事ができている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人の研修に参加し、他施設の情報を聞く事ができる。 グループホーム協会に加入し、研修に参加でき、サービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前や入居時に本人の要望や意見・希望・気持ちを聞く機会を持っている。話す回数を重ね、観察・傾聴し関係性を築き、ニーズを探して安らいだ生活を送れるように支援している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面接・契約時にご家族と話す機会を持ち、要望などを聞きサービスにつなげている。</p> <p>入居後は面会時に本人・ご家族同席の上、多方面の話等で関係を構築している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>何が一番必要か優先順位を検討して進めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員・入居者共に協力しあい、お互い出来る事はして頂き支え合う関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や外出・外泊などご家族の協力を頂き、支援ができている。</p> <p>なかなか面会に来られないご家族がいるので毎月のご様子のお手紙を出している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会など、関係継続できる様に努めている。	近所の友人や職場の知人が訪ねてきている。訪問者が来たときは居心地よく過ごせるように配慮している。手紙やはがき（年賀状）の取り次ぎや発送、電話の取り次ぎなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、良好な関係が築けるように観察をし、食席を変更や会話の間に入るなどして支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、相談等などはほとんど無い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	対応を一律化することなく、本人の意向を大事に支援している。困難な場合でも本人の意向に近づけるよう検討・試案を重ねていっている。	居室担当職員は日常の会話の中で思いや希望を聞き、職員間で情報を共有している。意思表示が困難な方には表情や様子から本人本位に考えて支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過記録や会話の中などから把握に努め、本人の暮らし方に添って支援を考えている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎでの情報などを元に、一人ひとりの希望や状況に合わせて起床時刻・入浴時間などを考え、個々を大切に生活して頂ける様に情報の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師・本人・ご家族と話し合いそれぞれの立場と意見交換しながら、プランを作成している。	居室担当職員は日常的にケアマネジャーに報告し、カンファレンスで意見交換している。医師からの情報や意見も計画に反映している。計画の目標に連動した支援経過を記録している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた変化や、些細な事も情報共有し日々の観察を怠らず、チームケアを大切にプランの見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応するため、外部サービス等を取り組み成果が得られる様に柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の心身状態に合わせて、外出や自治会の催しに参加できる機会を得ている。 毎月、保育園の誕生会に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の病院の往診・受診や、入居前のかかりつけ医への受診ができる様付き添いや連絡を取るなど、支援をしている。年1回の健康診断・訪問歯科・訪問マッサージを受けている方がいる。	内科は協力医療機関の医師が月1回往診し健康管理をしている。その他の診療科へは家族対応で受診し結果の報告を聞いている。訪問歯科が週1回来て、希望者に口腔ケアや治療をしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の病院の医師・看護師に連絡・相談をし、アドバイスや指示をもらう事ができている。受診や入院などにつなげる事ができている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診前や退院前には事前に相談・状況説明などをし、スムーズに対応できる様な関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合の説明をしている。 個々の状況に合わせて医師と相談し、ご家族の意見などから今後の介護・受診の方針を話し合う場を持っている。	入居時に「体調が急変・重度化した場合の説明」で説明し同意を得ている。 終末期を迎えたとの医師の意見をもとに家族、医師、事業所で話し合い、協力医療機関と連携して、できる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルがあり、掲示している。 急変時には対応できる様に、会議の時に方法や連絡方法など反し合っているが実践力が身に付いているかは不明。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練（通報・消火・避難）をおこない、万が一の時に備えている。 地域の方・ご家族に参加してもらい、避難訓練を行った。	25年度は6月に消防署立ち合いで地域の方の参加も得て消防訓練をした。9月には家族会の日に合わせ夜間を想定した訓練をした。3日分の食料と飲料水、災害時用緊急トイレ、カセットコンロなどの備蓄がある。地域ケア会議で「災害など状況に応じて、事業所を開放する意向がある」と伝えている。	消防訓練に地域の方々が参加した事例を今後も定期的に継続できるような働きかけを期待し、合わせて防災備蓄の整理を兼ねて、在庫が誰にでもわかりやすいよう一覧表を掲示するなど備蓄管理を検討されるよう期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類は鍵のかかる所に保管している。 研修をし、人格を尊重しプライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けている。	接遇やプライバシーの尊重については採用時研修を受けている。10月には「職業倫理・接遇について」の事業所内研修を行っている。個人情報にかかわる資料は鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、個々に合わせて希望や思いが自己決定できる様に支援している。1日の過ごし方など。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や本人の希望に応じて、希望に添える様に努力をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪や髭剃りなど、ご自分でできる方に声掛けしたり、ご家族からのプレゼントやご本人が大切にしている物など身に付けたりできる様に支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	限られた方ではあるが、野菜の皮むきや片づけ、食器拭きなど手伝ってもらっている。 月1回のおたのしみ食や外食などあり、皆で一緒に食べ楽しんでいる。	食材業者から、栄養管理された献立付きの食材が毎日配達されている。お花見などの外出時には外食を楽しんでいる。利用者はできることを手伝い、職員は介助や見守りをしながら同じものを食べていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて、量や形態を工夫して摂取出来るようにしている。 水分・食事チェック表で把握をし、支援につなげている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。ご自分で出来る方には、出来るだけ行ってもらい最後に職員がケアをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で把握をし、個々のパターンや行動を見たり、定期的に声掛けしトイレへ誘導し失禁しないように支援している。	排泄チェック表を記入し、個々のパターンを把握して、声かけ誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。退院時にはオムツだった方が布パンツにパッド使用になった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を目標に水分摂取を促したり、運動をしている。 疾患が重度化しないよう、便秘には留意している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人のスケジュールや体調に合わせて、入浴日や順番を決めている。 リフトがある為、車椅子の方でも安心して入浴してもらえる。	お風呂は毎日湯を張り、1週間に2回のペースで入浴している。入浴を好まない方には無理強いせず翌日にしてもらうなどしている。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。リフト浴の設備があり、リフトで湯船に入れる。座位を保てない方には職員2人体制で入浴介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調に合わせて休息できるように支援している。 夜間は湯たんぽやエアコンで室温を調節し、加湿器で加湿し安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用などを理解し、薬の処方変更時などは特に身体状況に留意している。 確実に服薬してもらえる様に共通理解をもって支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意な事を行っている。 手先の器用な方には壁面の飾り作成などを行っている。散歩に出かけたり歌を唄うなど気分転換などを行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力があり、外出・外泊ができる。 行事で外出したり、日ごろの散歩を行っている。	天気の良い日は日常的に、近くの公園や散歩、コンビニエンスストアに出かけている。平坦地で車いすでも出やすい環境になっている。家族対応で墓参りや外泊をする方もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族に電話をする事がある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様に室温・湿度・照明の調節を行っている。 季節感が味わえる様に、装飾の工夫や居場所作りを行っている。	朝の掃除の際に換気をし、エアコンで室温管理をしている。居間には季節感（ひな人形の絵）を感じる作品が貼られていた。ローカは広く、車椅子が十分にすれ違ふことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、思い思いの場所で過せる様に音楽を聴ける場所を作ったり、台所で職員と話をするなど工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた、仏壇や家具を持ち込みする事ができる。ご本人が大切な物や写真など飾り、思い思いの居室に工夫している。	居室には、エアコン、クローゼット、照明、ナースコールなどが設置されていた。利用者はテレビ、仏壇、サイドテーブル、収納ケースなどを置き好みに合わせ写真や人形を飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには手すりがあり一人で安全に移動する事ができる。 トイレや居室の場所がわかる様に目印などを付け工夫をしている。		

事業所名	グループホーム すみれ
ユニット名	2 F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をフロアーの見える所に掲示し、いつでも確認できるようになっている。 フロアー会議などで確認している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、保育園の誕生会や自治会のお祭りに参加している。地元中学校の職場体験を受け入れ、施設の役割や認知症の方とのふれあいを持って貰っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター会議への参加、運営推進会議、地域のお祭りに参加などして、認知症の方の理解をしてもらえる様に働きかけている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を話したり、地域の方に防災訓練に参加してもらうなどし、サービス向上に活かせるように心掛けている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や生活支援課の担当者と連絡をとり、入居者の相談や情報を伝えて協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加したり資料を活用して勉強会を行い共通理解を持って行なっていない。 夜勤者が1人対応になった時のみ玄関に施錠をしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行い、理解をしている。 常に言動や行動に注意し防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している 入居者がいるため理解している。 密に連絡を取り相談や報告を行っており活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望があったら面接に行き、ご本人・ご家族と希望や疑問などを聞き施設の理解をもらっている。 実際の居室の見学をおこなっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱が置いてあるが、投書はない。日頃の面会時や家族会・運営推進会議で相談や要望を聞く機会があり反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りの時に入居者を中心にした提案や意見を話す機会があり、反映している。 個々の力を発揮出来るような介護ができる様に職員のアイデアを活かしている。 日頃から職員の意見を吟味し検討改善する機会を持っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の働きなどを元に年2回の賞与に反映されている。 各担当や係を持って貰い、やりがいを有るように努め気持ちよく仕事ができている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、外部の研修に参加する事ができている。 職員の入れ替わりなどにより、勤務体制が厳しいと時もあるが徐々に慣れてもらえるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人の研修に参加し、他施設の情報を聞く事ができる。 グループホーム協会に加入し、研修に参加でき、サービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前や入居時に本人の要望や意見・希望・気持ちを聞く機会を持っている。話す回数を重ね、観察・傾聴し関係性を築き、ニーズを探して安らいだ生活を送れるように支援している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面接・契約時にご家族と話す機会を持ち、要望などを聞きサービスにつなげている。 入居後は面会時に本人・ご家族同席の上、多方面の話等で関係を構築している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族とよくコミュニケーションをとり、不安な事や希望に添えるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居前の生活歴などを参考に得意な事や出来ること活かして、役割分担を持って尊重し合える関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や外出・外泊などご家族の協力を頂き、支援ができています。 なかなか面会に来られないご家族がいるので毎月のご様子のお手紙を出している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会など、関係継続できる様に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、良好な関係が築けるように個々の性格など把握・観察をし、食席の変更や会話の間に入ったたり、レクレーションなどして支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から、「すみれではどうだったのか？こんな時はどうしていたのか？」などの問い合わせがある事がある。 年賀状でご様子を教えてくれる方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者への声掛けと話しに耳を傾け、思いや意向を大事に支援している。困難な場合でも本人の意向に近づけるように努力している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過記録や会話の中などから把握に努め、本人の暮らし方に添って支援を考えている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の情報などを元に、一人ひとりの希望や状況に合わせて起床時刻・入浴時間などを考え、個々を大切に生活して頂ける様に情報の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師・本人・ご家族の意見を元に、ご本人が暮らしやすくなる様に介護計画を作成している。ミーティングでモニタリングや意見やアイデアを出し反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた変化や、些細な事も情報共有し日々の観察を怠らず記録をしている。チームケアを大切にプランの見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応するため、外部サービス等を取り組み成果が得られる様に柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の心身状態に合わせて、外出や自治会の催しに参加できる機会を得ている。 毎月、保育園のお誕生会に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の病院の往診・受診や、入居前のかかりつけ医への受診ができる様付き添いや連絡を取るなど、支援をしている。年1回の健康診断・訪問歯科・訪問マッサージを受けている方がいる。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の病院の医師・看護師に連絡・相談をし、アドバイスや指示をもらう事ができている。受診や入院などにつなげる事ができている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診前や退院前には事前に相談・状況説明などをし、スムーズに対応できる様な関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援            重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時重度化した場合の説明をしている。            個々の状況に合わせて医師と相談し、ご家族の意見などから今後の介護・受診の方針を話し合う場を持っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え            利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急マニュアルがあり、掲示している。            急変時には対応できる様に、会議の時に方法や連絡方法など反し合っているが実践力が身に付いているかは不明。</p>		
35	13	<p>災害対策            火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練（通報・消火・避難）をおこない、万が一の時に備えている。消防・地域の方・ご家族に参加してもらい、避難訓練を行った。災害時の備蓄を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	書類は鍵のかかる所に保管している。 研修をし、人格を尊重しプライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、個々に合わせて希望や思いが自己決定できる様に支援している。1日の過ごし方など。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や本人の希望に応じて、希望に添える様に努力をしている。 お手伝い、裁縫や歩行練習、尺八の練習をされている方がいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪や髭剃りなど、ご自分でできる方に声掛けしている。ご自分で着る服を選んでもらったり、口紅を塗るなど支援をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやお盆拭き・調理の下ごしらえ・おしぼり作りなど手伝ってもらっている。 月1回のおたのしみ食や外食などあり、皆で一緒に食べ楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援            食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に合わせて、量や形態を工夫して摂取出来るようにしている。            水分・食事チェック表で把握をし、支援につなげている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持            口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後行っている。ご自分できる方には、出来るだけ行ってもらい最後に職員が歯間ブラシなどを使いケアをしている。            週1回の訪問歯科で口腔ケアを行なっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援            排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表で把握をし、個々のパターンや行動を見たり、定期的に声掛けしトイレへ誘導し失禁しないように支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応            便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の排便を目標に水分摂取を促したり、運動をしている。            毎日2回のテレビ体操を行なっている。            疾患が重度化しないよう、便秘には留意している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援            一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個人のスケジュールや体調に合わせて、入浴日や順番を決めている。            リフトがある為、車椅子の方でも安心して入浴してもらえる。            足浴をして循環をよくするように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調に合わせて休息できる様に支援している。 夜間は湯たんぽやエアコンで室温を調節し、加湿器で加湿し安眠できる様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用などを理解し、薬の処方変更時などは特に身体状況に留意している。 確実に服薬してもらえる様に共通理解をもって支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意な事を行っている。手先の器用な方には壁面の飾り作成などを行っている。散歩に出たり、歌を唄うなど気分転換などを行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力があり、外出・外泊ができる。 行事で外出や、日ごろの散歩を行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族に電話をする事がある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様に室温・湿度・照明の調節を行っている。季節感が味わえる様に、装飾の工夫や居場所作りを行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、思い思いの場所で過ごされている。台所で職員と話をするなど工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた、仏壇や家具を持ち込みする事ができる。ご本人が大切な物や写真など飾り、思い思いの居室に工夫している。居室入り口には表札を出したり暖簾で目印になるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアー・トイレなどには手すりがあり一人で安全に移動する事ができる。トイレや居室の場所がわかる様に目印などを付け工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすみれ

作成日 H26年 3 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けての情報の共有。	対応・ケア方法を勉強し、改めて共通理解を持って介護ができる。	勉強会や研修に参加して知識を深める。	1年
2	35	災害対策として職員全員が対応できる。	災害時適切な対応ができる。	備蓄場所の掲示・認識。 災害時の対応勉強。 地域の方が参加した消防訓練の継続実施。	1年
3	52	共用部分の汚れなどあり、環境整備・美化。	施設の環境整備と維持管理する。	清掃チェック表を作成し、施設の美化を行う。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。